

## 平成 22 年 3 月期連結決算発表 ～食品部門、バイオ部門ともに増益～

### 平成 22 年 3 月期 決算概要

当期におけるわが国の経済情勢は、景気は持ち直しておりますが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にある等の状況が続いております。

食品部門は、消費低迷やデフレ傾向により厳しい市場環境が続いている中、高付加価値製品の拡販や新規顧客獲得等の販売努力に加え、原材料価格を含むコスト削減を推進しました。また、イーストとパン品質改良剤との組合せ提案が出荷増に結びつき、収益に貢献しました。

バイオ部門は、大手製薬企業の業界再編以後、各社とも研究・開発投資を差し控えておりましたが、回復の兆しも見え始めてきました。バイオ事業を製薬企業等顧客の研究・開発サポートを提案する「研究・創薬支援事業」と位置付け、顧客のニーズを掘り起こし、需要拡大を目指しました。また、昨年 10 月に養魚飼料事業を日清丸紅飼料㈱へ譲渡しましたが、その経営資源を動物実験関連ビジネスに集中し、実験動物用飼料等の売上増を図りました。

加えて、食品・バイオ両部門共に、研究・開発体制の強化を図るとともに、生産効率の向上やエネルギー費の削減を目的とした設備投資を推進しました。

この結果、当期の売上高は、養魚飼料事業譲渡による売上減が影響し、635 億 22 百万円（前期比 99.2%）と減収になりましたが、顧客ニーズの掘り起こしによる売上増や原材料を含めたコスト削減策の推進により、経常利益は 29 億 26 百万円（前期比 166.3%）、当期純利益は 17 億 47 百万円（前期比 210.0%）と増益になりました。

### 平成 23 年 3 月期 連結業績予想

日本経済は景気が持ち直しておりますが、依然として消費の低迷が続く、原材料相場や原油相場の上昇もあり、厳しい市場環境となっております。

上記の状況を踏まえ、食品・バイオ両部門ともに、高付加価値の新製品の上市やコスト削減の推進に取り組んでまいります。売上高はバイオ部門の養魚飼料事業譲渡に伴う売上減少の影響による減収、利益面では原材料価格やエネルギーコストの変動による減益を見込んでおります。

平成 23 年 3 月期の連結業績につきましては、売上高は 627 億円（前期比 98.7%）、経常利益は 24 億 60 百万円（前期比 84.1%）、当期純利益は 13 億 20 百万円（前期比 75.6%）を予想しております。

以上